

第326回
株式会社テレビ新潟放送網
放送番組審議会

- 1 開催日時 平成28年3月28日(月)午前11時00分より
- 2 開催場所 テレビ新潟 会議室
- 3 委員総数 9人 出席委員8人

出席委員

豊口 協	委員長	大矢 純一	副委員長
村松 敦	委員	春日 貴光	委員
原田 健一	委員	大久保 千春	委員
田村 明子	委員	尾畑 留美子	委員

会社側出席者

代表取締役社長	室川 治久
常務取締役編成局長 兼 番組審議会事務局長	
	須佐 博樹
取締役(報道・制作・技術・国際担当)	平野 真一
執行役員報道制作局長	稲田 裕之
報道制作局次長兼制作部長	小木 裕介
報道制作局 合評番組チーフディレクター	芝 至

事務局 増子 隆 水野 明子

4 議 題

1) 番組合評

「大追跡 ～心を震わせた新潟あの瞬間～」

[放送：3月4日（金）18:15-19:56]

（説明：番組プロデューサー 芝 至）

2) 会社報告

① 2月の視聴者の意見 （報告：番組審議会事務局）

② 講じた措置、公表など定例報告等 （報告：番組審議会事務局）

3) その他

5 審議の概要（委員の意見）

会社側から、開局35年の節目の番組として、過去のニュース映像から、あの人あの出来事は今という発想で企画し、大変な事があっても、現在は希望を持ち、頑張っ、前へ進んでいる姿をメッセージとして感じてほしかったという説明があった。

- 「ここにはあなたがいるかもしれない」というナレーションがあり、観るにつれ、カメラと一緒に、新潟の過去をひも解いていったような気がした。
- 新潟の歴史に加え、ねばり強い新潟県人気質あふれる人々の物語が入っていたのが特徴的だった。
- 田中角栄氏について、今、あらためて見直してみたいという気持ちになった。
- 経済の低迷や地域活力が少しずつ低下している状況を感じ、残念に思いつつも、報道を通じ、各年代の新潟の今を切り取

り、積み重ねてきた局の頑張りを感じた。

- 次々と特集を組んでもよさそうなトピックスが続き、コメントも短く、テンポよく、飽きることなく観ることができた。
- 過去の出来事を知る世代が懐かしむだけでなく、知らない世代でも過去の出来事や人を今とつなげて観ることができる仕掛けがあり、双方の世代にとって有意義であったと思う。
- 高田世界館から伝える意味は？観やすい一方で、司会とゲストの会話がもっとはずむような位置取りはできなかったのか。
- 使用していない部分も含めて、ニュース映像の保存は、長期的な展望のもとで残してほしい。地方局の地域貢献のひとつとして、映像の利活用を考えてほしい。
- 田中角栄氏の金の話をしている部分と、拉致に関わる蓮池氏の証言、この2つは価値のあるものだった。
- 毎年必ず取り上げる必要はあったのか？内容的に薄い年は飛ばして、重要なところは厚めにしてもよかったのではないか。
- 35年の時の中で、世の中の、当たり前だった常識や規範が今では変わってしまったことが観てとれて面白かった。
- 振り返りだけでなく、番組の終わりで、未来へつなげていくヒントになるような時間や材料があってもよかった。
- 他では観たことのない、地元テレビ局の貴重な映像を残して、そして放送したと思う。初めて観る人、もう一度観る人、両方にとって価値ある番組であった。
- すばらしい記録・内容である。エピソードがすべて未来への希望・前進などのプラスとして表現されていた。

6 会社側の報告

1) 放送番組に関して申し出のあった意見の概要

2月…… 121件

2) 訂正放送、取り消し放送の実施状況

前回審議会(平成28年2月22日)から昨日(平成28年3月27日)まで、総務省に届け出た訂正放送、取り消し放送はありませんでした。

7 審議機関の答申または意見(前回審議会)に対してとった措置

1) 前回、第325回審議会では、「新潟一番 ラーメンの旅 JAPAN どんぶり国とり合戦」を審議いただきました。委員の意見は議事概要にて記者制作スタッフ、社内に周知しました。

2) 番組審議会議事録を全社員・スタッフに回覧しました。

8 今回の第326回放送番組審議会の公表

1) テレビ新潟本社、長岡支社、上越支社の県内事業所に議事概要の書面を準備しています。

2) 当社のニュースで審議会の概要を放送します。

3) インターネットのTeNYホームページに議事概要を掲載します。

9 参考事項(委員への配布資料)

- ・2月の視聴者からの意見、問合せ等の集計表
- ・民間放送新聞(2/23、3/3、13、23号)BPO報告(N0.158)

以上